

芸術と文化を活かした街づくり 瀬戸内・高松視察研修 報告書



平成22年10月

大分経済同友会
地域委員会

目 次

はじめに	2
1. 香川県における芸術・文化の歴史的蓄積	3
2. 現代アートによる島嶼部の活性化	7
3. 高松のまちづくり	15
参考資料1 視察研修スケジュール	20
参考資料2 視察研修参加者名簿	21
参考資料3 主要参考文献	22

はじめに

現在、県都大分市では鉄道高架事業や、大分駅周辺総合整備事業、駅南土地区画整理事業、複合文化交流施設、中心市街地活性化事業など中心部が大規模に再整備されつつある。大分駅開業後 100 年目となる文字通り世紀のプロジェクトが進行している。

大分経済同友会地域委員会では、県都大分の中長期の将来はどうあるべきか検討しながらまちづくりに関する事業を行っている。過去 2 回のフォーラムを開催し経済界で検討して明確にしたまちづくりの目標を基に理想の街を考え VR（ヴァーチャルリアリティ）化して提案を行った。現在大分市は大分駅を中心とした都心南北軸デザインを検討しており、それに対応すべく平成 22 年 8 月には大分の交通体系について提言も行っている。都心南北軸コンセプトデザインが完成すると都市構造としてのインフラ、まちの骨格については明確になってくると思われる。地域委員会は、その次のステージとして、県都大分の品格や風格を考え、賑わい創出や大分の顔づくりについて検討を始めた。

2009 年に別府で開催された BEPPU PROJECT、別府現代芸術フェスティバル 2009 「混浴温泉世界」では現代アートの面白さを大分で知らしめて、かつ県外からも多くの来場者を呼び集めまちづくりや観光産業にも効果を及ぼした。そこで国内を見渡すと、現代美術を中心とした直島の地中美術館などではすでに芸術鑑賞の域から観光産業化していることもわかった。直島は、日本国内からの来訪者だけでなく、イギリスの旅行雑誌に「世界で行くべき 10 箇所」という紹介をされたこともあり多くの外国人観光客も訪れている。今年 7 月より 100 日間、瀬戸内海の 7 つの島と高松で「瀬戸内国際芸術祭 2010」が開催された。来場者予定は 30 万人だったが 60 日で 40 万人を超える予想以上の人気となっていた。そこで、地域委員会では、「瀬戸内国際芸術祭 2010」の視察を計画した。また高松市周辺は美術館や芸術文化関連施設が多く存在しアートツーリズムとして成功している。香川県になぜ芸術・文化が蓄積していったのか理由とその効果なども視察を行った。

また、高松中央商店街は全国でも有数な元気な商店街である。その商店街に香川県立ミュージアムや高松市美術館が立地している。丸亀町商店街では再開発事業を行っており大手ディベロッパーに頼らない事業で成功しつつある。県都大分でも中心部インフラ整備後には、民間の再開発も可能性があると思われる。古川理事長にそのノウハウの説明をして頂いた。

今後、県都大分の中心部は、郊外の大型 SC と共存をしながら活性化していかなければならない。そのキーワードは郊外では難しい、芸術・文化面での「品格」、歴史に根ざした「風格」であろう。大分県は県立美術館整備を検討している。また大分市の都心南北軸デザインも「大分の顔づくり」が必要不可欠となる。この瀬戸内・高松視察研修を通して芸術文化を活かしたまちづくり、賑わいづくりを考え始めることとする。そして大分市と別府市とで複眼的に芸術・文化によるまちづくりが行われ、その結果、大分別府も広義では瀬戸内であり、直島などと共にアートツーリズムが成立して観光産業化できればと願う。

都市は「骨格」「品格」「風格」が必要だ。・・・この言葉の必要性を強く思う。



1. 香川県における芸術・文化の歴史的蓄積

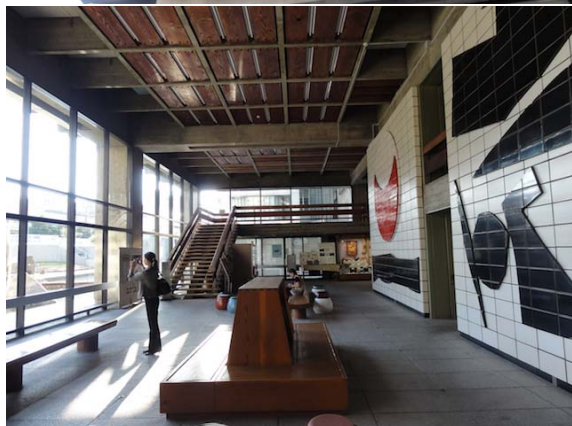
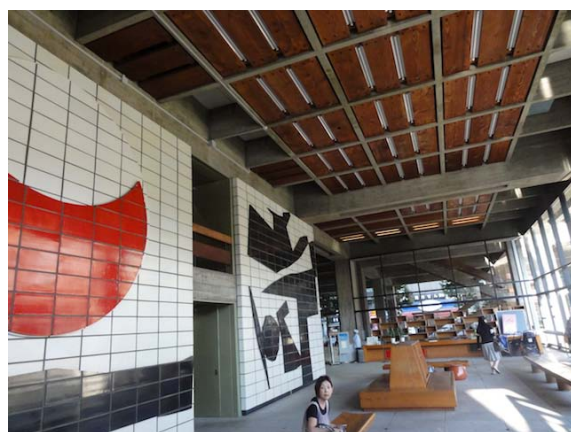
(1) 金子知事時代のネットワーク

香川県には、猪熊弦一郎、丹下健三、イサム・ノグチ、流政之、ジョージ・ナカシマなど、数多くの芸術家、建築家、デザイナーが作品を残している。その背景には、香川県知事を6期24年(1950～1974)にわたり務めた金子正則知事の存在があった。

地元出身の画家、猪熊弦一郎は、金子知事の中学時代の先輩にあたり、県庁舎の建設にあたって、設計者の丹下健三を知事に紹介したのはこの猪熊であったという。彫刻家イサム・ノグチを知事に紹介したのも猪熊であり、やはり彫刻家の流政之は丹下が紹介したもの。さらには、流の勧めで米国の家具デザイナー、ジョージ・ナカシマが来日するなど、人と人との繋がりが香川に多くのアーティストを呼び込む契機となった。

このように香川県には、金子知事の時代に培われた、アート・建築に係るDNAが存在したといえよう。

今回の視察では、香川県におけるアートの歴史的蓄積を垣間見るべく、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、イサムノグチ庭園美術館、そして、やはり香川県に縁の深い東山魁夷の作品を展示する香川県立東山魁夷せとうち美術館を訪ねた。香川県立ミュージアムでは、開催中の企画展「海を越えた香川のアーティストたち」を見学し、そこでもまた猪熊、ノグチ、ナカシマらの作品に接する機会を得た。



香川県庁（丹下健三設計 1957年完成）

併設して高層の香川県庁新館（丹下健三）がある

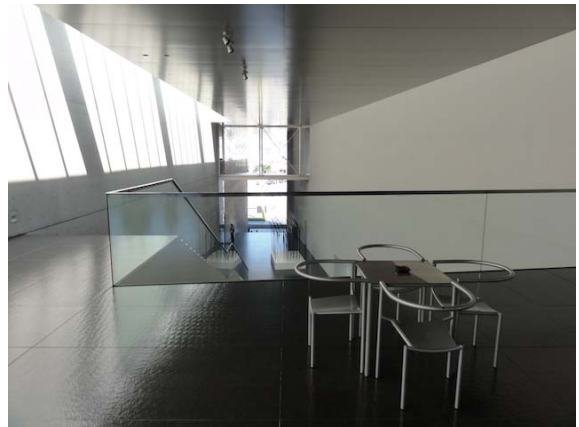
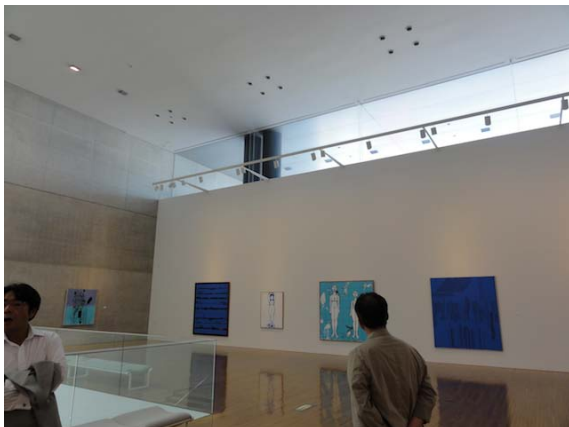
(2) 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（愛称MI MOC A）は、1991年に丸亀市に開館した市立美術館であり、地元出身の画家、猪熊弦一郎（1902～1993）の絵画を常設展示しているほか、現代アートを中心とした企画展を開催している。

当美術館の建設に際しては当初、市の郊外が想定されていたが、猪熊氏が、市民・子供に愛される美術館を建設するなら、まちなかが望ましいと提唱。折から、JRの高架化により操車場用地が空いたこともあり、JR丸亀駅前という好立地が実現したという。

設計は、建築家の谷口吉生。谷口氏は東京国立博物館法隆寺宝物館（1999）、ニューヨーク近代美術館（MOMA）新館（2004）を設計するなど、美術館設計の第一人者として知られるが、MI MOC Aは彼が手がけた美術館としては初期の仕事に属する。

視察時には、常設展示のほかに企画展として「シッケテル キュピキュピと石橋義正」展が開催されていた。映像、パフォーマンスを多用した現代アートの展示である。エロティシズムを濃厚に湛えた展示で、瀬戸内国際芸術祭の作品群とは異質なムードながら、そこに漂う独特の美しさ、ユーモアは興味深いものであった。



(3) 香川県立東山魁夷せとうち美術館

香川県立東山魁夷せとうち美術館は、2005年に坂出市の瀬戸大橋のたもとに開館した県立美術館であり、日本画家の東山魁夷（1908～1999）の作品を常設展示している。魁夷の祖父が、坂出市の櫃石島に生まれ育ったという縁から、作品の寄贈、美術館の建設が実現したという。

設計は、MIMOCAと同じく谷口吉生であり、MOMA新館と同時期の作品となる。美術館としては小規模ながら、ラウンジからの瀬戸大橋の眺望が素晴らしい。瀬戸大橋のライトグレーの配色を東山魁夷が提案したという経緯を十分に踏まえた設計といえよう。こうしたデザイン・立地も与ってか、開館当初は年間3万人と想定されていた入場者数は初年度で10万人を記録、現在までの累計入場者数は45万人を数えるという。

視察時には、企画展として「千住博 青の世界 東山魁夷からの響き」展が開催されていた。千住博は、直島の家プロジェクト「石橋」にも参加している現代アーティストであり、今般の企画展も瀬戸内国際芸術祭2010連携事業として実施されている。



(4) イサムノグチ庭園美術館

イサムノグチ庭園美術館は、世界的彫刻家のイサム・ノグチ（1904～1988）が庵治石産地の牟礼町（現・高松市）に構えたアトリエ・住居を美術館として活用した施設であり、1999年より一般公開が始まっている。

ノグチは当時、硬い石を加工する技術を求めており、牟礼町が、墓石等に用いられる庵治石の産地であったことから、当地を選んだという。彼が初めて牟礼町を訪れたのが1956年、1969年からは当地にアトリエと住居を構え、以降20年余りの間、地元の石の作家である和泉正敏をパートナーとして作品制作を続けてきた。

美術館といっても展示物が全て室内に飾られているわけではなく、彫刻作品の多くは庭園に並べられ、ノグチが自ら選んで四国各地から移築した展示蔵や古民家も含めて、施設全体が一つのまとまりを持った小宇宙を構成している。

開館日は火・木・土曜日のみで、見学時間も10時、13時、15時の1日3回に限定され、なおかつ入館は予約制で、IT全盛のこの時代にも関わらず、予約は往復葉書で申し込む必要がある。運営主体が民間であるにもかかわらず、商売気の全くない運営方法であるが、この美術館の静謐にして瞑想的な環境を保つうえでは、やむをえない措置ともいえよう。



2. 現代アートによる島嶼部の活性化

(1) 瀬戸内国際芸術祭までの道のり

前章で概観したように、香川県には現代アートにまつわる豊富な歴史的蓄積がある。しかし、香川県が現在、現代アートの先進地として知られるようになった背景には、そうした伝統とは別のきっかけがあった。その舞台となったのが、瀬戸内海に浮かぶ離島、直島（香川県直島町）である。

直島は、高松市の北方約 13 km、岡山県玉野市から南方約 3 km の瀬戸内海に浮かぶ面積約 14 k m² の離島である。㈱三菱マテリアルと水産業の町として発展してきたが、人口は現在約 3,300 人と減少が続き高齢化・過疎化が進む。

1987 年、当時の直島町長と㈱ベネッセコーポレーションの創業者、福武哲彦氏の対談を機に、直島での文化的施設整備の動きが始まり、福武哲彦氏の逝去に伴い遺志を継いだ福武総一郎氏が 1989 年に直島国際キャンプ場を、1992 年に安藤忠雄氏設計によるホテル兼美術館「ベネッセハウス」をオープンさせた。その後、直島の各地で徐々に、島の自然や地域文化を活かした現代アート作品が設置されていった。

ベネッセが直島を舞台に開催した 2 度の展覧会、直島スタンダード (2001)、直島スタンダード 2 (2006~07) を経て、恒久展示される作品が増えていき、そして今年、直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島の 7 つの離島（犬島のみ岡山県で、他の島は香川県）と、高松港周辺を舞台に、瀬戸内国際芸術祭 2010「アートと海を巡る百日間の冒険」が開催される運びとなった。

今回の視察では、これらの島々のうち、直島、犬島の見学を行っている。



名	混雑情報	その他
南寺/バックサイド・オブ・ザ・ムーン (Minamidera/Backside of the Moon)	入館1時間30分待ち	11時30分
地中美術館 (Chichu Art Museum)	入館1時間待ち	現在11時30分 It is w



(2) 直島

① 美術館（ベネッセハウスミュージアム、地中美術館、李禹煥美術館）

1992年に開館したベネッセハウスミュージアムは、直島におけるアートプロジェクトの第一歩といえる。このとき建築家として起用された安藤忠雄は、その後もベネッセハウスの各棟や、地中美術館、李禹煥（リ・ウーファン）美術館の設計も手がけていくことになる。また、館内に作品が収蔵された大竹紳朗（「シップヤード・ワークス 船底と穴」等）、杉本博司（「タイム・エクスポーズド」）、須田悦弘（「雑草」）、柳幸典（「バンザイ・コーナー」等）、ジェームズ・タレル（「ファースト・ライト 1989-90」）等の作家たちは、地中美術館や家プロジェクトでもその腕を振るっており、そうした意味ではこのミュージアムを、直島の現代アートのプロトタイプと呼ぶこともできよう。ベネッセハウスには、このミュージアム棟のほかに、われわれ視察団が宿泊したパーク棟にも、杉本博司らの作品が展示されている。

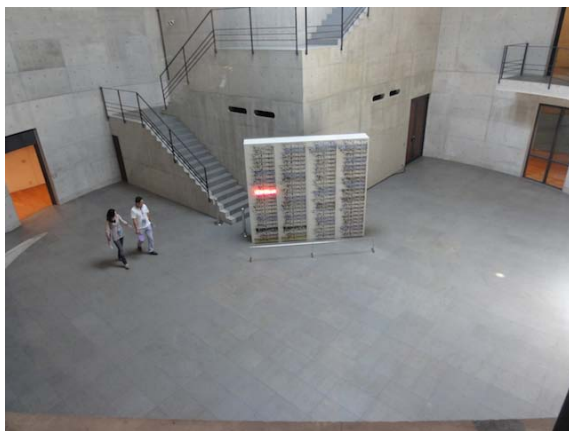
地中美術館は、クロード・モネ、ジェームズ・タレル、ウォルター・デ・マリアの3作家の作品のみを展示する美術館であり、2004年に開館した。安藤忠雄は、この美術館を地中に埋め込むかたちで設計しているため、外側からは建物の姿はほとんど窺い知れない。迷宮めいた内部構造を含めて、美術館自体が4番目のアートであると称してもよいだろう。



直島



地中美術館とベネッセハウスミュージアム



ベネッセハウスミュージアム



モネの世界を実際の庭で再現

今回の視察では、地中美術館を日中に視察したほか、日没時に開催されるオープンスカイナイトプログラムにも参加した。開催日、定員ともに制約のある特別プログラムであり、タレルの作品「オープンスカイ」（天井に四角く穴の空いた部屋）から、日没時の刻々移り変わる陽光を約1時間にわたり眺めるという内容である。

李禹煥美術館は瀬戸内国際芸術祭に合わせて今年開館した、直島で最も新しい美術館で、もの派の巨匠、李禹煥の絵画・彫刻を展示している。



ベネッセハウスミュージアム



李禹煥美術館



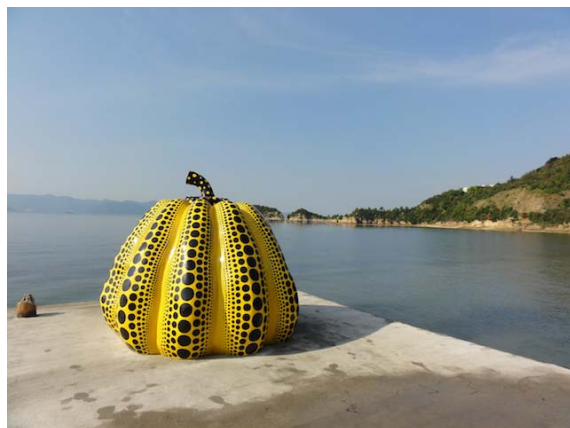
ベネッセハウスパークに宿泊



部屋からの眺望



ベネッセハウスのレストラン 海の星 Etoile de la mer



草間彌生のかぼちゃたち「南瓜」(きいろ)

② 家プロジェクト

ベネッセのアートプロジェクトが、直島南端におけるホテル兼美術館の運営にとどまっていたならば、島民との接点も少なく、現在のようなムーブメントには育たなかったかもしれない。そうした意味で、町の中心部である直島東部の本村地区で展開する「家プロジェクト」が、地域の活性化に果たした役割は大きいといえよう。町に残る民家等を活用して、家屋そのものをアート作品に仕立てるプロジェクトであり、宮島達男の手により1998年に完成した「角屋」が第1号作品となった。

この作品では、約200年前に建てられた古民家の室内に水が張られ、その中に沈められた多数のデジタル・カウンターはそれぞれが独自のスピードで数字を刻んでいる。島民参加型の作品であり、個々のカウンターの速度は島民の一人一人が自分で決めたものである。この作品がきっかけとなって、島民が現代アートと自らの関わりを感じ始めるようになったという。

以降、家プロジェクトは順次拡大していき、現在は「角屋」、「南寺」（ジェームズ・タレル）、「きんざ」（内藤礼）、「護王神社」（杉本博司）、「石橋」（千住博）、「碁会所」（須田悦弘）、「はいしゃ」（大竹伸朗）の7軒が公開されている。今回の視察で見学できたのは、角屋、護王神社、南寺、碁会所、はいしゃの5軒であった。



連日多数の人たちが殺到。



角屋のデジタル&アナログな不思議な体感：宮島達男



ジェームズ・タレルの南寺は超人気



護王神社、ガラスの階段が印象的：杉本博司



はいしゃ：大竹伸朗 I♥湯も設計

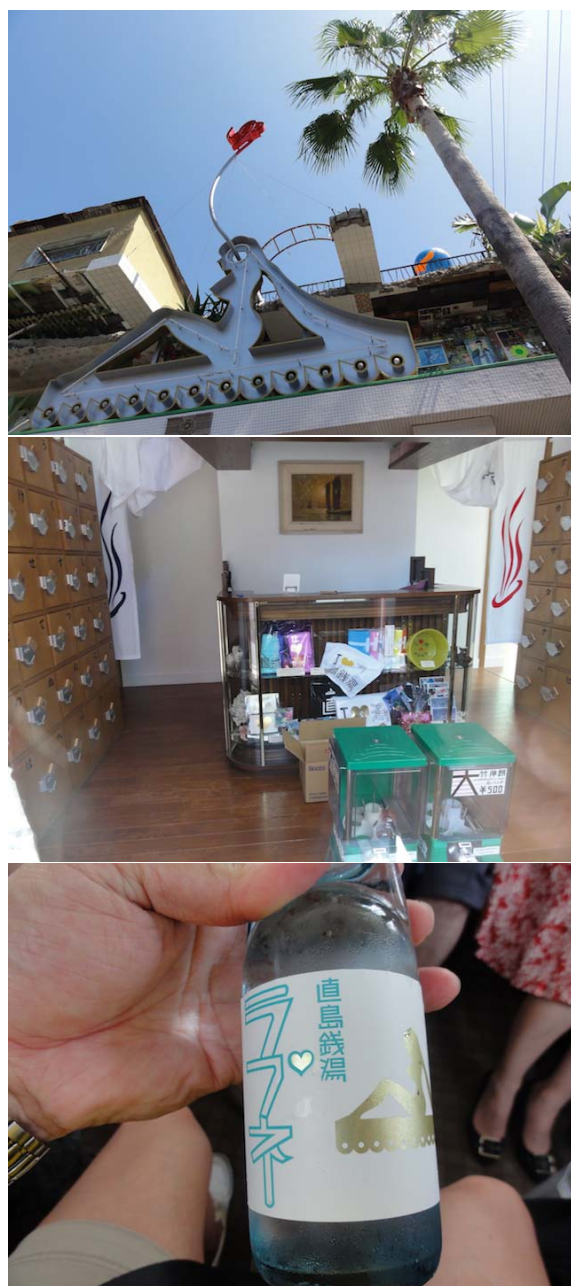


元風呂場には・・・入浴→ニューヨーク→自由の女神？

③ 直島銭湯「I♥湯（アイラヴユ）」

直島西部の宮浦港は、高松、宇野からのフェリーが発着する、いわば直島の玄関口にあたる。ここには既に、金沢 21 世紀美術館で知られる妹島和世＋西沢立衛／SANAA設計の旅客ターミナル「海の駅なおしま」や、草間彌生の巨大オブジェ「赤かぼちゃ」などが立地しているが、2009年、そうした顔ぶれに新たに加わったのが直島銭湯「I♥湯」である。

家プロジェクト「はいしゃ」を手がけたアーティスト大竹伸朗の作品であり、銭湯として実際に入浴することができるアート作品である。われわれ視察団一行は実際に湯船に浸かり、旅の疲れを癒すとともに、現代アートを満喫することができた。



I♥湯の不思議な空間体験。いいお湯でした。

(3) 犬島

① 犬島アートプロジェクト「精錬所」

犬島は岡山県岡山市に属する離島である。20世紀初頭に銅の精錬所が開設されたものの、わずか10年でその役割を終え、全盛期で3千人以上いたという島の人口は現在、100人を切るという。

この精錬所跡地をアート作品として甦らせたのが、犬島アートプロジェクト「精錬所」である。アーティストの柳幸典、建築家の三分一博志のコラボレーション作品として、2008年に開館している。三島由紀夫をモチーフにしたアート作品や、精錬所跡を素材に自然エネルギーを活かした建築を構想するなど興味深い展示であるが、それ以上に、朽ちかけた煉瓦造りの煙突が林立する廃墟という近代化産業遺産の風景の方に、観衆は圧倒されるかもしれない。



朽ち果てた産業のエネルギーに圧倒される。三島由紀夫の部屋を再現。楳文あり。

② 家プロジェクト

瀬戸内国際芸術祭に合わせて、犬島でも家プロジェクトが展開された。「F邸」「S邸」「I邸」の3つのギャラリーと、休憩スペースとして「中の谷東屋」が公開されている。建物の設計は妹島和世、ギャラリーに展示されているのはいずれも柳幸典の作品である。



60人の島民が住む犬島



おいしい弁当



家プロジェクト：アートディレクター・長谷川祐子、建築家・妹島和世
アーティスト・柳幸典

- F邸 「山の神と電飾ヒノマルと両翼の鏡の坪庭」
- S邸 「蜘蛛の網の庭」 2010年
- I邸 「眼のある花畑」

(4) サイトスペシフィックということ

直島に始まる現代アートの取り組みのポイントを一言でまとめると、それはサイトスペシフィックということに尽きるのではないかと思う。どこで展示しても変わらない絵画や彫刻ではなく、作品が展示されるその土地ならではのアートという意味である。

ベネッセハウスミュージアムに収蔵された作品の多くは、アーティストが実際に直島を訪れ、展示場所を実際に見ながら制作してもらったものである。また、地中美術館に展示された諸作品は、安藤忠雄の建築とまさに一体化しており、いずれか一方を欠くことはできない。

島の生活風景に溶け込むようにして設置された家プロジェクト、近代化産業遺産である銅製錬所跡地を活かした犬島アートプロジェクト「精錬所」もまた、地域の歴史に根ざした風景・建築がなければ成り立たない作品といえよう。

考えてみれば、前章で紹介した丸亀市猪熊弦一郎美術館、香川県立東山魁夷せとうち美術館、イサムノグチ庭園美術館もまた、収蔵作品と美術館建築と周囲の環境が不可分に関わりあったサイトスペシフィックな美術館といえるかもしれない。

こうした視点は、ここ大分におけるアートのあり方を考えるうえでも、たいへん示唆に富むものであると思う。



3. 高松のまちづくり

(1) 高松中央商店街について

高松市の中央商店街は、兵庫町、片原町西部、片原町東部、丸亀町、南新町、田町、常磐町、ライオン通りの8商店街から構成されており、その全長は実に2.7kmに及ぶ日本一のアーケード街である。

今回の視察では、高松中心部におけるにぎわい創出の仕組みについて、特に、丸亀町再開発の動向と、市内の美術館の状況について調査を行った。



(2) 丸亀町再開発

高松は従前、大型店の立地も少なく、商業的には無風状態が長く続いていた。それが、1988年の瀬戸大橋完成後に、県外の大手チェーンによる郊外大型店進出が加速、過去の都市拡大政策もあって、諸機能が都心部に集積するコンパクトシティの姿が崩れ始めた。

こうした中、丸亀町では、①居住者を都心部に取り戻すこと、②最適なテナントミックスを実現することを目指して再開発を進めてきた。その際、失敗例の轍を踏まないことが重要と考え、役所やディベロッパーへの丸投げは行わない、大型店に頼らないことを合い言葉に、独自の取り組みを行ってきた。

丸亀町にはかつて多数の住民が住んでいたが、その多くは今や郊外に転出している。このため、都心居住の再生を図るべく、再開発ビルの上層階には住宅を設置している。そのためには、中心市街地の店舗が衣料アパレル関係に偏った状況は望ましくなく、都心居住者の日常生活を支える市場、医療、温浴施設等の商業・サービス機能が不可欠であり、住宅整備と並行してテナントミックスを

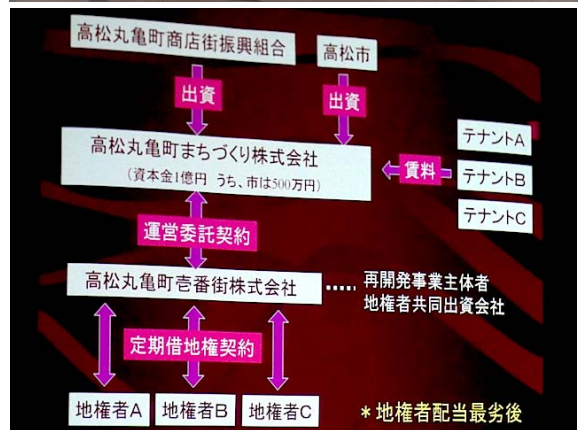
進めていくことが課題となった。

総論賛成、各論反対となりがちなこれら課題を解決していくうえで鍵となるのが、土地の所有権と利用権の分離である。地権者は定期借地契約によって土地の所有権を保全することができるが、土地の使用のあり方については、まちづくり会社が商店街全体としての適正なゾーニング、テナントミックスを考える。また、まちづくり会社は、テナントの家賃・共益費から借入金の元利を返済し、管理経費を差し引いたものを、地権者に地代家賃として分配する。テナント家賃の最低保証により、地権者はある程度の収入保証は見込めるものの、地権者の収入はテナントの売上に左右されるため、テナントと地権者が協力して売上向上、商店街活性化に努めようとするインセンティブが生まれる。

再開発ビル上層のマンションは、定期借地であり駐車場もないが、それでもA街区再開発で建設されたマンションは完売した。購入した層は、高齢者とDINKSが半々といった状況だという。



にぎわい創出のためのイベント開催についても、従来の方法の失敗を踏まえて取り組んでいる。欧州では都市の中心部に必ず広場があるが、丸亀町ではA街区の3町ドームがそれにあたる。丸亀町では、ドーム下の広場でさまざまなイベントを実現しているが、広場面積の相当部分は道路用地ではなく民有地を提供したものであるため、イベントを開催するといった弾力的運用が容易である。但し、地権者の立場からすれば、こうした広場に所有地を提供しても全く収入にならない。こうした面からも、土地の所有と使用を分離して、まちづくり会社が最適なゾーニングを行う方式が有効に機能している。また、イベント開催に際しては、商店主が自前でイベントを取り仕切るスキームでは長続きしないため、市民持ち込みイベントを着実にサポートできる体制を築くことが重要である。丸亀町では、イラストレーターやイベントのプロフェッショナルを職員として雇用するとともに、音響設備や楽器など機材の充実を図っている。こうした仕掛けにより、年間200本以上のイベントを3町ドームで実施することが可能となった。



(3) 中心市街地に立地する美術館

昨今では、美術館等の公共施設が、老朽化に伴う建替に際して郊外に移転するケースが多い。こうした中、2004年に金沢市で開館した金沢21世紀美術館は、都心部に立地することで多数の市民や観光客を集め、中心部ににぎわい創出に貢献した成功事例として有名である。

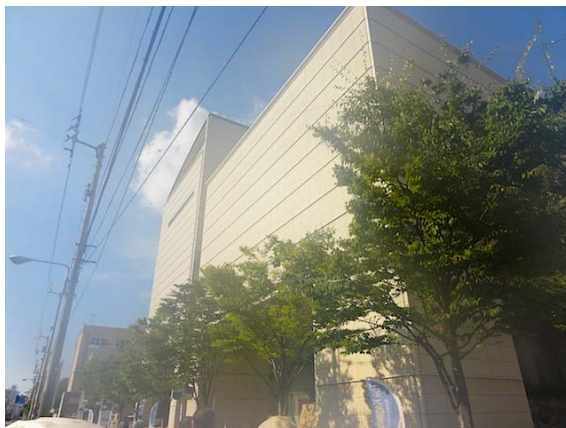
今回の視察先である香川県でも、既に紹介したMIMOCAが丸亀駅前に立地していたほか、県庁所在地の高松においても、香川県立ミュージアム、高松市美術館がまちの中心部に立地している。

① 香川県立ミュージアム

香川県立ミュージアムは、1999年に開館した。高松城跡である玉藻公園の東側に立地しており、片原町の商店街からは徒歩数分の位置にある。

開館当初は香川県歴史博物館であり、県の美術部門は香川県文化会館（香川県庁舎近隣）にあったが、文化会館の美術品展示機能は不十分なものであった。このため、2008年に香川県歴史博物館と香川県文化会館美術部門を統合して、香川県立ミュージアムと改称している。なお、従来の香川県文化会館は県立ミュージアムの分館として、香川県漆芸研究所（地場産業である香川漆器の職人を養成する機関）と県民ギャラリー、芸能ホール等からなる複合施設として現在も機能している。

香川県立ミュージアムでは、瀬戸内国際芸術祭 2010 連携事業として開催中の企画展「海を越えた香川のアーティストたち」を見学した。



② 高松市美術館

高松市の市立美術館である高松市美術館は、瀬戸大橋の開通した 1988 年に開館した。日本銀行高松支店の跡地に建設されており、丸亀町商店街の近隣に位置する都市型美術館である。コレクションは、地元工芸品（漆器等）と現代アートの二本柱から構成される。

視察当時は残念ながら常設展しか行っていなかったが、前後の期間で瀬戸内国際芸術祭 2010 連携事業を開催している。7～9 月にかけての現代アーティスト森村泰昌の個展「森村泰昌モリエンナーレ／まねぶ美術史」、9～10 月にかけての「高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol. 01」（毎年 1 回の定期展形式による現代アート展示）がそれである。

あくまで印象論だが、香川県立ミュージアム、高松市美術館は中心市街地のにぎわい創出において、金沢 21 世紀美術館ほどの貢献は行っていないように感じる。施設の外観も、アート作品を館内で展示する「ハコ」との印象が強く、サイトスペシフィックとはいえない。しかしながら、まちの中心部にこれだけの芸術文化インフラが蓄積されているのは、高松都市圏にとって大きなポテンシャルと評してよいだろう。

また、これらの美術館は、瀬戸内国際芸術祭の動きに呼応して現代アート展等を開催しており、これまで直島 1 島に限られていた現代アートの種子が、今般の芸術祭を通じて高松の都市部や他の島嶼部に播種されつつあるようにも思う。

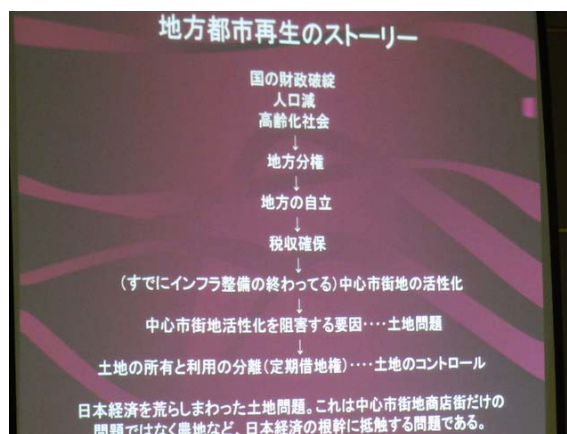
さらに、香川県立ミュージアムが県のアートの伝統を広く紹介する企画展に取り組んだように、直島発の動きが香川県におけるアートの歴史的蓄積、DNA を甦らせる可能性も十分に考えられる。

歴史的なアートの蓄積と、近年の直島における取り組みが結びつき、島嶼部を含む高松の広域都市圏全体が、さらに活性化していくことに期待したい。



参考資料 1 視察研修スケジュール

日程	視察研修スケジュール
9/ 9 (木)	<p>※ 前泊プラン（一部メンバーが参加）</p> <p>7:14 大分駅発</p> <p>11:30 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館</p> <p>13:00 香川県立東山魁夷せとうち美術館</p> <p>15:00 イサムノグチ庭園美術館</p> <p>高松泊（全日空ホテルクレメント）</p>
9/10 (金)	<p>7:14 大分駅発 （前泊組は高松市内ウォーターフロント視察後、10:55 高松発）</p> <p>13:00 ベネッセハウス ミュージアム</p> <p>14:45 李禹煥美術館</p> <p>15:30 地中美術館</p> <p>18:00 ジェームズ・タレル「オープンスカイナイトプログラム」参加</p> <p>直島泊（ベネッセハウス パーク）</p>
9/11 (土)	<p>10:00 直島島内アート鑑賞（家プロジェクト）</p> <p>12:00 直島銭湯「I♥湯」鑑賞・入浴</p> <p>13:50 犬島島内アート鑑賞（家プロジェクト、犬島アートプロジェクト「精錬所」）</p> <p>高松泊（全日空ホテルクレメント）</p>
9/12 (日)	<p>9:00 香川県立ミュージアム</p> <p>10:00 高松丸亀町商店街振興組合往訪（古川康造理事長より、丸亀町再開発について説明）</p> <p>11:00 高松市美術館</p> <p>高松中央商店街視察（自由時間）</p> <p>14:40 高松駅発</p> <p>19:01 大分駅着</p>



参考資料 2 視察研修参加者名簿

氏名	会社名	役職名
【地域委員会委員長】 尾野 文俊	鬼塚電気工事(株)	代表取締役専務
【地域委員会副委員長】 三浦 宏樹	(株)日本政策投資銀行	大分事務所長
甲斐 幸丈	(株)大分カード	代表取締役社長
檜本 譲司	(財)大分県森林整備センター	理事長
橋本 均	(株)マリーンパレス	代表取締役社長
馬場ヒロ子	日本連合警備(株)	代表取締役社長
吉田祐一郎	吉伴(株)	代表取締役社長
渡辺 亀満	日豊海運(株)	代表取締役社長
小林 大輔	大分合同新聞社	編集局報道部経済班記者
長濱龍一郎	パナソニック 電工(株)	中央エンジニアリング総合部環境計画推進グループグループ長
【添乗員】 姫野 妙子	(株)JTB九州	



参考資料 3 主要参考文献

- 「瀬戸内国際芸術祭 2010 公式ガイドブック アートをめぐる旅・完全ガイド」
- 「pen 2010年8/15号」
- 「現代アートと地域活性化～クリエイティブシティ別府の可能性～」(日本政策投資銀行大分事務所)
- 視察先のパンフレット、ウェブサイト等

----- 高松で気になったところ -----



JR 高松駅前



高松駅前広場



駅前バスターミナル



高松駅～商店街を巡るまちバスを商店街が運行。年間4百万を商店街が補填。



現在建設中の再開発事業



丸亀町商店街経営の駐車場。年間2億円収益



兵庫町商店街は地域ワオンカードと提携



高松は自転車の街。自転車道は歩道側にある。レンタサイクルも多数用意され、地下駐輪場やサイクルツリーも整備されている。
視察参加ありがとうございました。

